

プラント状況確認結果(令和元年7月2日～令和元年7月9日)

令和元年7月10日
福島県原子力安全対策課

令和元年7月2日～令和元年7月9日までの期間に、東京電力から福島第一原子力発電所のプラント状況に関する報告内容について、県が確認した結果は次のとおりであり、前回の報告から大きな変動はありません。

プラント状況(7月9日午前11時)

以下の項目について、実施計画*に定める制限を超える測定値はありません。

また、県の檜葉町駐在職員が福島第一原子力発電所中央操作室にてプラント状況を確認しています。確認結果はこちら [\(県HP\)](#) を御覧ください。

場所	目的	監視項目*	1号機	2号機	3号機	4号機 ^{※2}
原子炉 ^{※1} (核燃料)	冷却	注水量(m ³ /h)	3.0	3.0	3.0	—
		圧力容器 底部温度(°C)	23.1	28.3	26.1	—
	未臨界確認	キセノン135濃度 (Bq/cm ³)	1.00×10 ⁻³	検出限界値 未満	検出限界値 未満 ^{※3}	—
圧力容器	水素爆発防止	窒素充填	充填中	充填中	充填中	—
格納容器		水素濃度 (体積%)	0.00	0.09	0.06 ^{※3}	—
使用済燃料 プール	冷却	水温(°C)	28.0	28.4	27.2	—

※1 直近データのみ記載。詳細は[東京電力のページ](#)を御覧ください。

※2 4号機は原子炉及び使用済燃料プールに核燃料が入っていないため冷却等は必要ありません。

※3 A系は作業に伴い欠測のため、B系の値を記載。

(1) 発電所敷地境界におけるモニタリングポストの測定結果(7月9日午前10時)

最小 0.417(MP-6)～最大 1.265(MP-4) μSv/h ⇒ [計測地点の地図](#)

(2) 発電所専用港内の海水中セシウム137濃度の測定結果(7月8日採取分)

最小 検出限界値未満(6号機取水口前、物揚場前) ※検出限界値は0.50、0.53 Bq/L
～ 最大 41(1～4号機取水口内南側) Bq/L ⇒ [計測地点の地図](#)

(3) 発電所専用港外(沿岸)の海水中セシウム137濃度の測定結果(7月8日採取分)

5、6号機放水口北側：検出限界値未満 ※検出限界値は約0.64 Bq/L

南放水口付近：検出限界値未満 ※検出限界値は約0.57 Bq/L

⇒ [計測地点の地図](#)

(4) 発電所敷地内の大気中セシウム137濃度の測定結果

敷地境界に設置されている連続ダストモニタにより24時間連続で監視しております。測定結果はリアルタイムで公開されていますので、こちら [\(東京電力HP\)](#) を御覧ください。

(5) 1～6号機タービン建屋付近のサブドレン水中セシウム137濃度の測定結果(7月5日採取分)

最小 検出限界値未満(3、5、6号機) ※各検出限界値は5.6、4.4、4.7 Bq/L
～ 最大 160(1号機) Bq/L

トラブルの概要（令和元年7月2日～令和元年7月9日）

この一週間におけるトラブルについて、東京電力から以下のとおり報告を受けました。

■ 5号放射性液体漏えい警報の発生について（7月4日発生）

5・6号機排気筒サンプポンプ付近で「5号放射性液体漏えい」の警報が発生しました。漏えい検出器の排水弁を開け、排水がないことを確認しました。

また、漏えい検出器の信号ケーブルの端子ボックス内に雨水が流入して、端子が水没していることを確認しました。その後、当該端子ボックス内の雨水を抜き、端子の清掃を実施し、本日13時40分に上記警報がクリアしたことから、警報発生の原因は、ケーブル端子の水没による短絡であると判断しました。

これらのことから、放射性液体の漏えいは無かったものと判断しました。

詳しくはこちら [\(1\)](#) [\(2\)](#) をご覧ください。

■ 増設多核種除去設備（C）クロスフローフィルタ（C）スキッド1の漏えい警報の発生について（7月5日発生）

増設多核種除去設備（C）クロスフローフィルタ（C）スキッド1の漏えい警報が発生しました。現場確認の結果、クロスフローフィルタのバックパルスポート周辺に水滴があったことからバックパルスポートからの漏えいと推定しました。当該設備の運転を停止したことにより、漏えいは停止しました。

漏えいした水は堰内に留まっており、外部へ影響が無いことを確認しました。

漏えいした水の分析結果から、増設多核種除去設備の系統水が漏えいしたと判断いたしました。漏えいした水については、今後、準備が整い次第、回収処理いたします。

詳しくはこちら [\(3\)](#) [\(4\)](#) [\(5\)](#) をご覧ください。

■ 3号機原子炉建屋1階北東からの漏えいについて（7月9日発生）

3号機原子炉建屋1階北東で漏えい検知器が作動したことを示す警報が発生しました。現場を確認したところ、漏えい検知器周辺に漏えいはありませんでした。

詳しくはこちら [\(6\)](#) [\(7\)](#) をご覧ください。

* 実施計画及び監視項目に関する解説

○実施計画

正式名称は「福島第一原子力発電所特定原子力施設に係る実施計画」。東京電力の廃炉の取組（設備設置含む）について、原子力規制庁が安全性の審査を行い認可したもので、事業者の安全上守るべき基準値等が示されています。

○注水量及び圧力容器底部温度

1～3号機の原子炉格納容器内に存在する溶け落ちた燃料（燃料デブリ）を冷却するため、継続的な注水を行っています。実施計画では原子炉圧力容器の底部温度を80℃以下で管理することを定めています。

○キセノン 135 濃度

キセノン 135 はウランが核分裂する過程で生じる放射性物質であり、量によってどの程度核分裂が起きているか推定することができます。実施計画では1 Bq/cm³以下であることが定められています。

○窒素充填及び水素濃度

水素爆発防止を目的に、原子炉内の水素濃度を測定し、実施計画に定める制限値（2.5%）よりも低いことを確認しています。1～3号機では、原子炉格納容器に窒素を注入することにより水素や酸素の濃度を下げています。

○水温

使用済燃料プールの水を循環冷却することにより、プール水温を管理しています。なお、実施計画では60℃（1号機）または65℃（2、3号機）以下で管理することが定められています。

（お問い合わせ 024-521-7255）